

## いのちと森を守る活動

### CMIP グリーンカードの現状と将来 — ジョジョのクリニック報告より —

先週 11 月と 12 月分の報告が届きました。10 月分を含めた概要が一番下にあります。これまで報告に含みながら触れる機会がなかった「地域医療保険/グリーンカード」の現況をお伝えします。

\* \* \* \*

世帯当たり一日 1 ペソ月 30 ペソの保険料を納めれば、年間 365 ペソまでの医療費は無料、超過分は半額自己負担という CMIP 域内互助システム(グリーンカード)は、1999 年にサムラングとアトモロックの 2 村で始まりました。対象地域が 10 村位まで拡大した頃が保険料徴収額もピークで医療費も年 3000 ペソまで無料になりました。しかし、CMIP のエリア拡大により HANDS が支援する村の数も 50 に増えた今、この互助システムは機能を停止しています。毎月の報告にあるグリーンカード徴収額の平均 1000 ペソです。これは開始時に 2 村で集めた金額約 3,000 ペソの 3 分の 1 にすぎません。

当初は巡回診療時に保険の意義や義務の研修を実施し、カードに加入しないと自費診療という厳しい方針で自助努力を促しました。しかし奨支援対象地域拡大できめ細かな指導ができなくなり、未加入の患者対応が当たり前になりました。

HANDS としては、私たちの月約 5 万円の医療支援が、CMIP を通じて確実に平均 35 人の患者の治療・入院に役立てられていることで当面よしとしています。もう一つの医療事業パートナー PIHS と次年度の「モロの村の政府医療保険加入推進」事業を実施するなかで、将来の CMIP 地域の保険普及の可能性も考えていくこととなります。

#### <ジョジョのクリニック報告 10-12 月から>

- \* 患者総数: 83 人。主な疾患: ウイルス性風邪 37 名。
- \* 入院事例: 11/10-16 キュマング村 22 歳の男性。  
発熱・腹痛の症状があり、尿が腹部に漏れて手術が必要との診断だが経費がなく、服薬で経過観察中。12/6-10 高熱・咳・呼吸困難のアトモロック村 2 歳の女児。最終診断は肺炎併発肺結核。
- \* 奨学生医療支援: 精神疾患のエドナは 6 月復学の予定。心臓病のヘルメニアの定期健診結果は良好。
- \* 巡回診療: 10/30 サンタ・マリア・クラオ村。241 名(うち歯科 46 名) 12/4 ブカイ村。156 名(うち歯科 41 名)
- \* グリーンカード料徴収額: 計 2,460 ペソ

### モロの村の保健医療活動を支える 健康組合自主財源と奨学金支援

本年度は健康組合運営の財源捻出を目指してティナガカン村のヤシ屋根材共同出荷とバロンギス村の耕運機貸出事業を実施し、どちらも着実に収益を上げています。保健ボランティアが子どもの教育費を稼ぐために離村することがないようにと始めた奨学金事業も、奨学生が栄養改善のための給食支援を手伝ったり、若年妊娠出産を防ぐ性教育研修へ率先的に参加する等、期待以上の成果を上げています。次年度も耕運機に連結するカート支援を含めた事業の継続を予定しています。



奨学生も参加して栄養研修の実施

### 森林農業/アグロフォレストリー報告

#### <サウスコタバト州タラヒク村 25 世帯対象の事業>

11 月訪問時、イスラムの儀式に始まる昼食を終えて事業地域を回りました。近くに入植者による油ヤシ農園があります。4 年で収穫できる油ヤシではなく、7 年かかるゴムノキ選択の理由を住民に尋ねました。根が横に広がる油ヤシは、樹間の作物栽培ができず単一耕作になるとのこと。樹間に自給・換金のための作物栽培が必要な住民にとって根が垂直に伸びるゴムノキは最適な樹木作物のようです。(緑の募金公募事業)

#### <ダグマ山系森林再生事業・3 年継続事業>

ミンダナオはこの時期にしては雨が多く、事業地域ラワン村とバガカイ村に通じる道路状況は最悪です。傷みやすい苗木のトラック搬送はこの輸送条件が好転するまで待つしかありません。

育苗小屋建設用資材や対象住民に配布するシャベルなどはすでに届けました。ゴムノキや在来種の苗が到着し次第作業ができるように、住民は整地を済ませて待機中です。

(三井物産環境基金助成)